

第205回 (22/Ⅱ期) 群馬県内企業経営動向調査 (ビジネス・サーベイ)

群馬経済研究所研究員 井草祐美

◆調査概要

～業況判断DIは、原油高をはじめとした原材料費の高騰などにより、
2期連続のマイナスとなる～

- 2022年4～6月期の県内企業の業況判断DIは△7.2と、原油高、原材料費の高騰などから、2期連続のマイナスとなった。
- 内訳項目をみると、生産・販売（売上・受注）DIが2期連続の「減少」超、原材料（仕入）価格DIは大幅な「上昇」超が続き、採算DIは「悪化」超が続いた。人員判断DIは8期続けて「不足」超となった。
- 業種別に業況判断DIをみると、製造業が△8.5、非製造業が△6.2となり、13業種中9業種で「悪化」超（12頁）となった。製造業では「悪化」超が継続したが、原材料（仕入）価格の上昇分を製商品（販売）価格に上乗せできる企業も一部にみられ、全体の「悪化」超幅は縮小した。非製造業では、旅館・ホテルなどのサービス業が「好転」超に転じたものの、原材料（仕入）価格の上昇などが影響し、全体では「悪化」超が続いた。
- 経営上の問題点では、「原材料費の値上がり」が7割を超え引き続き最多となり、「売上・受注の停滞、減少」、「求人難」が続いた（17頁）。
- 2022年7～9月期の業況判断DIは△5.8と「悪化」超が続く見通しである。

項目別DI推移

(数字の前の「△」はマイナスを意味する)

年・月期	業況判断	生産・販売 (売上・受注)	製商品 (販売) 価格	原材料 (仕入) 価格	採 算	設備投資	資金繰り	在庫水準	人員判断
20・1～3	△17.7	△19.9	△ 0.7	14.0	△19.2	△ 5.4	△ 1.6	△ 9.6	△32.2
4～6	△54.8	△57.5	△13.2	△ 2.8	△51.2	△24.3	△11.7	△18.7	2.6
7～9	△15.4	△15.1	△ 4.6	8.0	△18.8	△13.4	0.6	△ 9.2	△11.3
10～12	3.1	2.5	△ 2.1	10.9	△ 5.5	△ 7.1	1.8	△ 5.5	△17.6
21・1～3	△19.0	△21.9	△ 3.7	21.5	△20.5	△10.7	△ 1.5	△10.2	△17.1
4～6	△ 9.1	△12.1	2.4	32.1	△18.0	△ 4.8	2.3	△ 6.9	△17.1
7～9	△ 2.8	△ 6.0	2.9	42.1	△17.5	△ 6.7	2.8	△ 9.7	△25.3
10～12	1.5	5.5	13.0	60.1	△16.5	△ 2.3	1.8	△ 3.1	△26.3
22・1～3	△18.9	△18.1	12.6	61.4	△30.8	△ 5.9	△ 4.2	△ 4.3	△28.4
4～6	△ 7.2	△ 5.8	23.8	74.3	△25.6	△ 7.6	△ 2.3	△ 7.9	△26.8
(前 期 比)	(11.7)	(12.3)	(11.2)	(12.9)	(5.2)	(△ 1.7)	(1.9)	(△ 3.6)	(1.6)
(前回予測比)	(△ 9.8)	(△ 9.3)	(10.9)	(26.2)	(△14.7)	(△ 1.9)	(0.6)	(△ 6.8)	(0.2)
22・7～9見通し	△ 5.8	1.8	21.5	62.5	△20.7	△ 6.5	△ 4.5	△ 2.8	△25.4
(前 期 比)	(1.4)	(7.6)	(△ 2.3)	(△11.8)	(4.9)	(1.1)	(△ 2.2)	(5.1)	(1.4)
D I	好転－悪化	増加－減少	上昇－低下	上昇－低下	好転－悪化	増加－減少	余裕－窮屈	不足－過剰	過剰－不足

◆調査要領

1. 調査の目的

群馬県内の景気動向と先行きを予測し、県内主要産業の実態を把握する。

2. 調査対象企業

群馬銀行の取引先を中心に1038社

回答社数451社（回答率43.4%）うち製造業189社 非製造業262社

3. 調査方法

記名式で当研究所の指定した項目について、その実績と見通しを記入するよう依頼した。

4. 調査時期

2022年5月上旬～6月上旬

5. 調査対象期間

2022年4～6月期実績、2022年7～9月期見通し（前期比）

◆回答状況

調査回答数

	会社数	構成比 (%)	うち 中小企業	地域別		
				中央部	東 部	その他
製 造 業	189	41.9	182	68	93	28
食 料 品	25	5.5	25	11	9	5
織 維	7	1.6	7	2	5	0
木 材 木 製 品	7	1.6	7	4	1	2
窯 業 土 石	5	1.1	5	1	2	2
電 気 機 器	14	3.1	13	4	8	2
輸 送 機 器	31	6.9	29	8	21	2
金 属 製 品	31	6.9	31	9	19	3
一 般 機 械	18	4.0	17	10	7	1
そ の 他	51	11.3	48	19	21	11
非 製 造 業	262	58.1	250	136	72	54
卸 売 業	49	10.9	48	30	14	5
小 売 業	43	9.5	38	26	12	5
建 設 業	71	15.7	68	34	17	20
サ ー ビ ス 業	99	22.0	96	46	29	24
合 計	451	100.0	432	204	165	82

注1：地域別

中央部…前橋・高崎地域
東 部…桐生・伊勢崎・太田・館林地域
その他…上記以外の地域

注2：中小企業

製造業……資本金3億円以下または
従業員300人以下
卸売業……資本金1億円以下または
従業員100人以下
小売業……資本金5千万円以下または
従業員50人以下
サービス業…資本金5千万円以下または
従業員100人以下

注3：その他の製造業に含まれる業種

パルプ・紙・紙加工品製造業
印刷・同関連業
化学工業
石油製品・石炭製品製造業
プラスチック製品製造業
ゴム製品製造業
その他、他に区分されない製造業

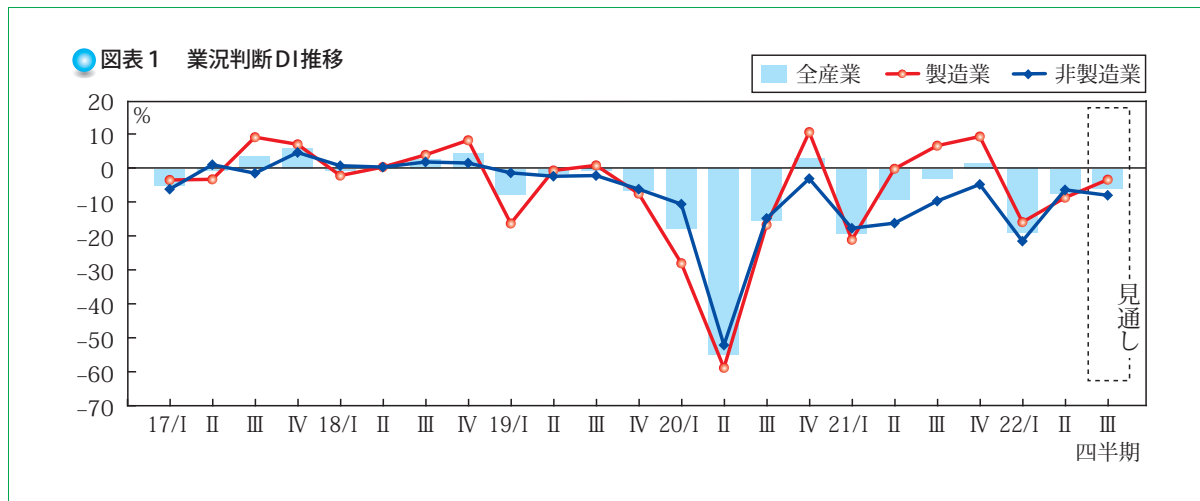
■本文中にあるDIについて

DIは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略。好転した企業の割合から悪化した企業の割合を差し引いたもので、企業経営者の景況判断をみる指標である。

例えば、回答した企業のうち30%の企業で生産が増加し、10%の企業が減少した場合、DI値は「 $30 - 10 = 20$ 」となる。DI値は、好不況等の浸透度を測るためのもので、量的大きさを測ることを直接の目的としていない。このため、DI値から生産が高水準であるのか、低水準であるのかの判断が困難な面もあるので、従来からの推移をみて増加傾向にあるのか、低下傾向にあるのかを判断する。

1. 自社業況判断

～原油高、原材料費の高騰などにより、2期連続のマイナスとなる～



	22/I 実績	22/II (4-6月)		22/III 見通し
		前回予測	実績	
好転	9.7	(17.8)	14.5	11.0
変わらず	61.7	(67.0)	63.8	72.2
悪化	28.6	(15.2)	21.7	16.8
全産業DI	△18.9	(2.6)	△7.2	△5.8

業種	22/I 実績	22/II (4-6月) 前回予測	22/II (4-6月) 実績	22/III 見通し
製造業DI	△15.7	(8.4)	△8.5	△3.2
食料品	△27.3	(13.7)	△4.0	△12.0
繊維	△45.5	(9.1)	△28.6	△28.6
木材木製品	0.0	(0.0)	0.0	0.0
窯業土石	△33.3	(△33.3)	△40.0	△40.0
電気機器	△15.4	(0.0)	△14.3	0.0
輸送機器	△35.7	(32.2)	△29.0	3.2
金属製品	5.1	(△2.6)	3.2	12.9
一般機械	△10.6	(26.3)	0.0	△5.6
その他	△10.6	(2.1)	△2.0	△5.9
非製造業DI	△21.3	(△1.5)	△6.2	△7.8
卸売業	△21.1	(△7.7)	△8.7	0.0
小売業	△20.0	(5.0)	△21.0	△7.0
建設業	△11.0	(△13.7)	△14.1	△12.7
サービス	△29.6	(8.1)	7.1	△8.1

【22年4～6月期】

○全産業

原油高、原材料費の高騰などの影響により、全体のDIは△7.2となった。9業種で「悪化」超が継続した。

○製造業

原材料（仕入）価格の上昇や半導体不足から、6業種で「悪化」超となった。一方で、食料品、一般機械などの一部企業では、原材料（仕入）価格等の上昇分を製商品（販売）価格に上乗せできており、全体のDIは△8.5と、マイナスながら改善がみられた。

○非製造業

旅館・ホテルなどを中心にサービス業は「好転」超に転じたが、ほか3業種で「悪化」超が継続した。小売業では原材料（仕入）価格の上昇のほか、巣ごもり需要の縮小や在庫不足などで「悪化」超が目立つ。非製造業全体のDIは△6.2と改善がみられたものの、14期連続で「悪化」超となった。

【22年7～9月期（見通し）】

○全産業

DIは△5.8と「悪化」超が続く見通し。

○製造業

改善が見込まれるものの、「悪化」超が続く見通し。

○非製造業

引き続き「悪化」超となる見通し。

2. 項目別動向

(1)生産・販売(売上・受注)

～「減少」超幅が縮小～

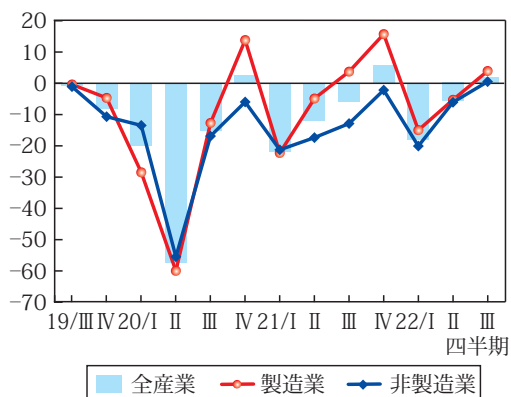
	22/Ⅰ	22/Ⅱ(4-6月)		22/Ⅲ
	実績	前回予測	実績	見通し
増加	14.8	(21.2)	18.6	17.9
横ばい	52.3	(61.1)	57.0	66.0
減少	32.9	(17.7)	24.4	16.1
全産業DI	△18.1	(3.5)	△5.8	1.8
製造業DI	△15.1	(9.9)	△5.4	3.8
食料品	△27.3	(18.2)	12.0	12.0
繊維	△36.4	(9.1)	△14.3	△57.1
木材木製品	△16.6	(△16.7)	28.6	14.3
窯業土石	△33.3	(△16.7)	△40.0	△40.0
電気機器	△30.8	(0.0)	△14.3	0.0
輸送機器	△42.8	(39.3)	△29.0	9.6
金属製品	2.6	(0.0)	6.7	10.0
一般機械	△10.5	(26.3)	△5.5	△5.5
その他	2.1	(0.0)	△4.0	8.0
非製造業DI	△20.2	(△1.1)	△6.2	0.4
卸売業	△28.8	(△5.8)	0.0	16.7
小売業	0.0	(17.5)	△23.2	△7.0
建設業	△19.2	(△21.9)	△21.1	△7.0
サービス	△24.8	(9.3)	9.2	1.0

(2)製商品(販売)価格

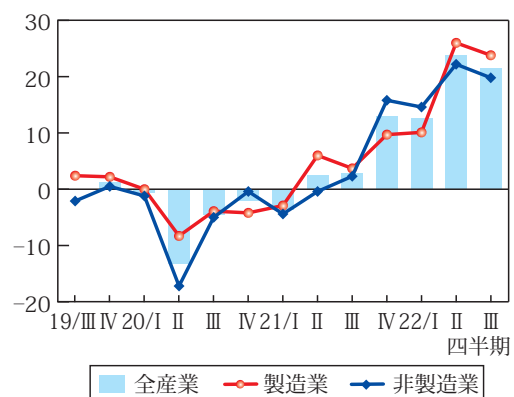
～「上昇」超幅が拡大～

	22/Ⅰ	22/Ⅱ(4-6月)		22/Ⅲ
	実績	前回予測	実績	見通し
上昇	17.0	(17.0)	28.4	25.6
横ばい	78.6	(78.9)	67.0	70.3
低下	4.4	(4.1)	4.6	4.1
全産業DI	12.6	(12.9)	23.8	21.5
製造業DI	10.1	(11.6)	26.0	23.8
食料品	9.1	(31.8)	32.0	28.0
繊維	△9.1	(9.1)	△14.3	14.3
木材木製品	50.0	(16.6)	57.1	42.9
窯業土石	16.7	(33.3)	40.0	40.0
電気機器	7.7	(△7.7)	21.5	28.6
輸送機器	△7.1	(7.1)	20.0	13.3
金属製品	15.4	(10.2)	26.7	20.0
一般機械	5.3	(10.5)	27.7	16.6
その他	17.8	(8.9)	26.6	28.6
非製造業DI	14.6	(13.8)	22.2	19.8
卸売業	26.9	(25.0)	44.9	49.0
小売業	33.3	(23.1)	27.9	25.5
建設業	8.6	(1.5)	13.0	10.1
サービス	3.6	(12.9)	14.3	8.8

● 図表2-1 生産・販売(売上・受注)DI推移(22/Ⅲは見通し)



● 図表2-2 製商品(販売)価格DI推移(22/Ⅲは見通し)



【22年4～6月期】

○製造業

全体では「減少」超が続いたが食料品、木材木製品で「増加」超に転じた。

○非製造業

乗用車等の小売業や建設業で大幅な「減少」超、全体でも「減少」超となった。しかし、旅館・ホテルを中心としたサービス業では「増加」超に転じた。

【22年4～6月期】

○製造業

原材料(仕入)価格の高騰に伴い、繊維以外の全業種で「上昇」超となった。

○非製造業

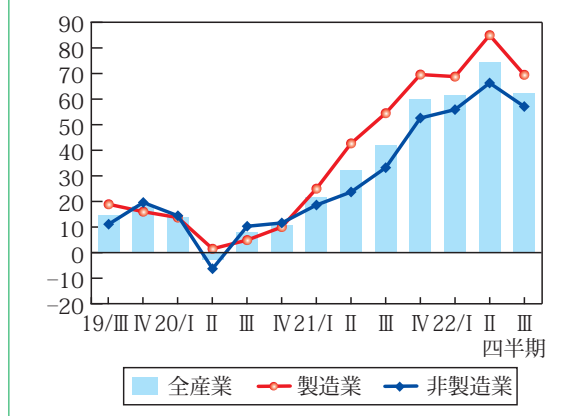
全4業種で「上昇」超での推移となった。特に卸売業は「上昇」超幅が大きくなっている。

(3)原材料（仕入）価格

～大幅な「上昇」超が続く～

	22/I	22/II(4-6月)		22/III
	実績	前回予測	実績	見通し
上昇	62.5	(49.0)	75.2	63.6
横ばい	36.4	(50.1)	23.9	35.3
低下	1.1	(0.9)	0.9	1.1
全産業DI	61.4	(48.1)	74.3	62.5
製造業DI	68.8	(50.8)	85.0	69.5
食料品	63.6	(59.1)	88.0	80.0
繊維	81.8	(54.5)	100.0	71.4
木材木製品	50.0	(16.7)	85.7	42.9
窯業土石	66.7	(83.3)	80.0	40.0
電気機器	84.6	(61.5)	85.7	64.3
輸送機器	57.1	(35.7)	80.7	71.0
金属製品	71.8	(41.0)	90.0	73.4
一般機械	84.2	(63.2)	88.9	66.7
その他	64.5	(55.6)	80.0	70.0
非製造業DI	55.9	(46.0)	66.3	57.1
卸売業	59.6	(51.9)	79.6	77.6
小売業	50.0	(35.0)	48.8	41.4
建設業	69.4	(62.5)	80.0	70.0
サービス	45.6	(34.5)	56.5	43.5

● 図表2-3 原材料（仕入）価格DI推移(22/IIIは見通し)



【22年4～6月期】

○製造業

原油高や半導体不足などにより、全9業種で「上昇」超幅が依然高止まりしている。

○非製造業

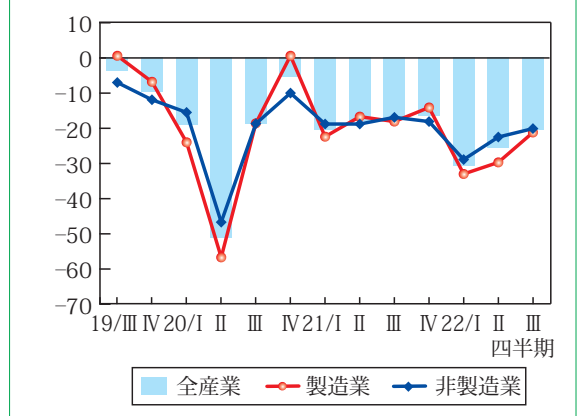
原油高、円安などにより石油製品、燃料などの高騰が継続し、全4業種で「上昇」超となった。

(4)採算

～「悪化」超が続く～

	22/I	22/II(4-6月)		22/III
	実績	前回予測	実績	見通し
好転	5.3	(11.4)	7.0	6.5
変わらず	58.6	(66.3)	60.4	66.3
悪化	36.1	(22.3)	32.6	27.2
全産業DI	△30.8	(△10.9)	△25.6	△20.7
製造業DI	△33.1	(△5.8)	△29.8	△21.3
食料品	△45.5	(9.1)	△20.8	△37.5
繊維	△72.7	(△27.3)	△42.9	△28.6
木材木製品	△16.7	(16.7)	0.0	0.0
窯業土石	△33.3	(△50.0)	△40.0	△40.0
電気機器	△46.1	(△23.1)	△28.6	△28.6
輸送機器	△44.5	(18.5)	△48.3	△16.1
金属製品	△20.5	(△5.1)	△32.2	△16.1
一般機械	△36.8	(15.8)	△27.8	△27.8
その他	△19.2	(△23.4)	△23.5	△15.7
非製造業DI	△29.0	(△14.7)	△22.6	△20.2
卸売業	△36.5	(△30.8)	△27.1	△23.0
小売業	△15.0	(△7.5)	△26.2	△19.0
建設業	△25.4	(△26.8)	△27.1	△27.2
サービス	△33.3	(0.0)	△15.4	△14.5

● 図表2-4 採算DI推移(22/IIIは見通し)



【22年4～6月期】

○製造業

原材料（仕入）価格高騰が大きく影響し、8業種で「悪化」超となった。全体でも、「悪化」超が続いた。

○非製造業

全4業種で「悪化」超となった。特に、小売業のうち在庫不足の乗用車販売は、「悪化」超が顕著である。

(5)設備投資

～「減少」超が続く～

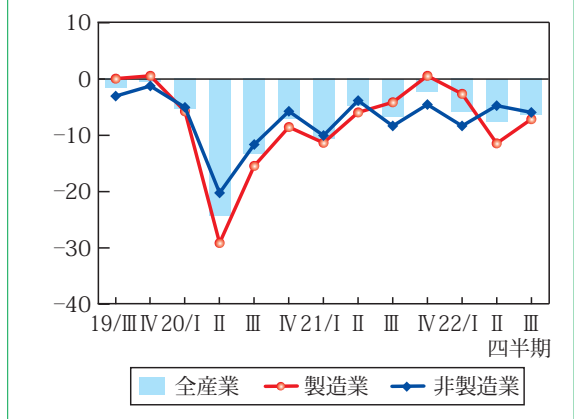
	22/Ⅰ	22/Ⅱ(4-6月)		22/Ⅲ
	実績	前回予測	実績	見通し
増加	10.6	(9.2)	9.3	9.7
横ばい	72.9	(75.9)	73.8	74.1
減少	16.5	(14.9)	16.9	16.2
全産業DI	△5.9	(△5.7)	△7.6	△6.5
製造業DI	△2.7	(△3.7)	△11.5	△7.2
食料品	△4.6	(0.0)	16.7	0.0
繊維	△60.0	(△10.0)	△16.7	△16.7
木材木製品	0.0	(0.0)	△28.6	△28.6
窯業土石	0.0	(0.0)	0.0	0.0
電気機器	△8.3	(0.0)	△7.7	15.4
輸送機器	3.6	(7.2)	△12.9	△3.2
金属製品	0.0	(△5.4)	△7.4	△3.7
一般機械	△5.3	(△15.8)	△38.9	△27.8
その他	6.4	(△6.4)	△15.7	△9.8
非製造業DI	△8.4	(△7.2)	△4.8	△6.0
卸売業	△14.6	(△14.6)	△4.5	△8.9
小売業	△13.1	(△5.2)	△7.3	△7.3
建設業	△12.3	(△13.7)	△2.9	△7.3
サービス	0.0	(1.1)	△5.2	△3.1

(6)資金繰り

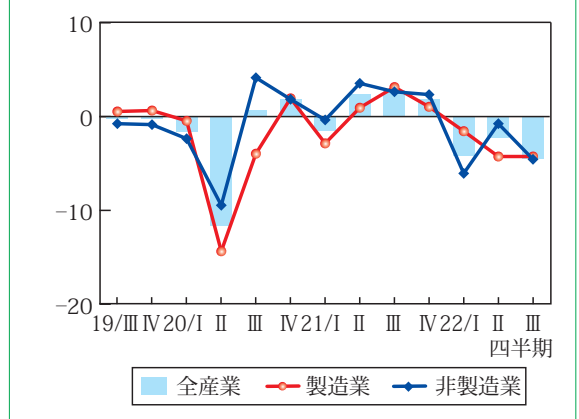
～「窮屈」超が継続～

	22/Ⅰ	22/Ⅱ(4-6月)		22/Ⅲ
	実績	前回予測	実績	見通し
余裕	9.6	(9.3)	11.4	9.6
普通	76.6	(78.5)	74.9	76.3
窮屈	13.8	(12.2)	13.7	14.1
全産業DI	△4.2	(△2.9)	△2.3	△4.5
製造業DI	△1.6	(0.0)	△4.3	△4.3
食料品	0.0	(4.6)	8.0	4.0
繊維	△40.0	(△40.0)	△14.3	△42.9
木材木製品	16.7	(16.7)	0.0	14.3
窯業土石	△16.7	(△16.7)	△20.0	△20.0
電気機器	7.7	(15.4)	14.3	14.3
輸送機器	△7.2	(△3.6)	△12.9	△9.7
金属製品	2.6	(0.0)	△6.4	△6.4
一般機械	△10.6	(0.0)	0.0	0.0
その他	6.4	(4.3)	△8.2	△6.2
非製造業DI	△6.1	(△5.0)	△0.8	△4.6
卸売業	△7.7	(△1.9)	△4.2	△4.2
小売業	2.5	(0.0)	△2.4	△4.7
建設業	△1.3	(△2.8)	8.5	△4.3
サービス	△12.4	(△10.3)	△5.1	△5.1

● 図表2-5 設備投資DI推移(22/Ⅲは見通し)



● 図表2-6 資金繰りDI推移(22/Ⅲは見通し)



[22年4～6月期]

○製造業

製造業全体では「減少」超が続いた。製造業全体の設備投資目的は、老朽化対応、合理化・省力化が中心であった。

○非製造業

全4業種で「減少」超となった。非製造業全体の設備投資目的では、老朽化対応が目立った。

[22年4～6月期]

○製造業

繊維、窯業土石、輸送機器などで「窮屈」超が続き、製造業全体でも「窮屈」超が続いた。

○非製造業

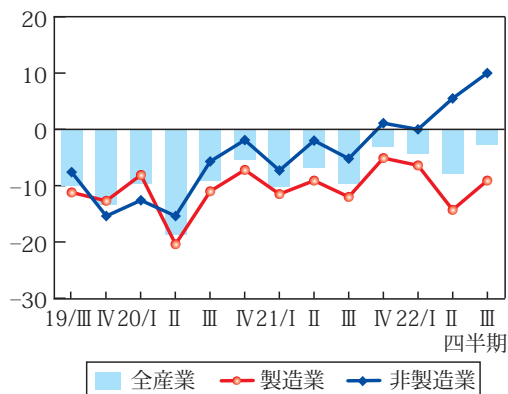
小売業など3業種で「窮屈」超となったが、非製造業全体では改善がみられる。

(7)在庫水準

～「過剰」超が続く～

	22/I	22/II(4-6月)		22/III
	実績	前回予測	実績	見通し
不足	8.3	(7.2)	7.6	7.6
適正	79.1	(84.5)	76.9	82.0
過剰	12.6	(8.3)	15.5	10.4
全産業DI	△4.3	(△1.1)	△7.9	△2.8
製造業DI	△6.4	(△3.8)	△14.3	△9.1
食料品	△9.1	(△4.5)	△16.0	△8.0
繊維	0.0	(10.0)	△28.6	△28.6
木材木製品	16.7	(16.7)	△28.6	△28.6
窯業土石	16.7	(0.0)	20.0	20.0
電気機器	△15.4	(△30.8)	△28.6	△14.3
輸送機器	△22.2	(0.0)	△29.0	△19.4
金属製品	△5.4	(△2.7)	△6.4	3.3
一般機械	△11.1	(△11.1)	11.1	5.5
その他	0.0	(△2.1)	△14.0	△12.0
非製造業DI	0.0	(4.4)	5.5	10.0
卸売業	△9.8	(△1.9)	△4.0	2.0
小売業	12.5	(12.5)	17.1	19.6
建設業	0.0	(0.0)	0.0	0.0
サービス	0.0	(0.0)	0.0	0.0

図表2-7 在庫水準DI推移(22/IIIは見通し)



注)非製造業のうち、建設業、サービス業は対象外

【22年4～6月期】

○製造業

半導体不足や部品調達難の影響で、電気機器などで「過剰」が多くなった。製造業全体でも「過剰」超が続いた。

○非製造業

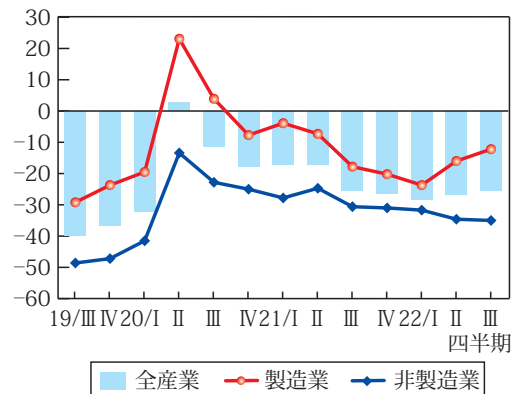
乗用車などの生産遅延などから供給が滞り、小売業で「不足」超が目立つ。

(8)人員

～8期連続の「不足」超～

	22/I	22/II(4-6月)		22/III
	実績	前回予測	実績	見通し
過剰	9.7	(6.6)	8.0	7.6
適正	52.2	(59.8)	57.2	59.4
不足	38.1	(33.6)	34.8	33.0
全産業DI	△28.4	(△27.0)	△26.8	△25.4
製造業DI	△23.7	(△20.5)	△16.0	△12.2
食料品	△22.8	(△18.2)	△12.0	8.0
繊維	△18.2	(△27.3)	△42.9	△42.9
木材木製品	△50.0	(△16.7)	△28.6	△28.6
窯業土石	△33.3	(△16.7)	△40.0	△40.0
電気機器	△15.4	(0.0)	△7.2	0.0
輸送機器	10.7	(△21.4)	6.5	3.2
金属製品	△50.0	(△39.5)	△22.6	△19.3
一般機械	△26.3	(△26.3)	△33.3	△33.3
その他	△21.3	(△8.5)	△16.0	△14.0
非製造業DI	△31.7	(△31.7)	△34.6	△35.0
卸売業	△19.2	(△17.3)	△32.6	△26.5
小売業	△32.5	(△40.0)	△14.0	△16.3
建設業	△48.6	(△40.2)	△45.7	△50.0
サービス	△25.5	(△29.6)	△36.8	△36.7

図表2-8 人員DI推移(22/IIIは見通し)



【22年4～6月期】

○製造業

輸送機器を除く8業種で「不足」超が続き、製造業全体でも「不足」超となった。

○非製造業

建設業や運輸・倉庫を中心としたサービス業で「不足」が多くなった。非製造業全体でも、大幅な「不足」超が続いた。

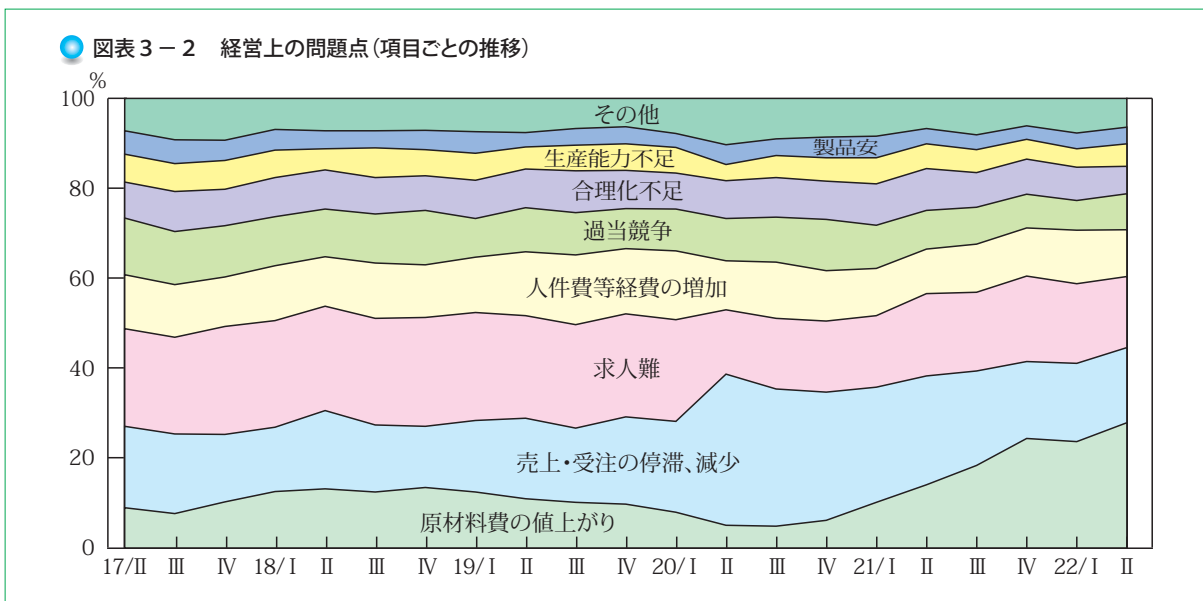
3. 経営上の問題点

～「原材料費の値上がり」が最多、「売上・受注の停滞、減少」、「求人難」が続く～

図表3-1 経営上の問題点

(単位：%)

項目	22年 1～3月期	22年 4～6月期	前期比増減	回答の多い業種
原材料費の値上がり	59.0	70.7	11.7	木材木製品、窯業土石、電気機器、金属製品
売上・受注の停滞、減少	43.5	42.2	△1.3	窯業土石、輸送機器、繊維
求人難	44.2	40.0	△4.2	窯業土石、建設業、サービス業
人件費等経費の増加	29.6	26.4	△3.2	食料品、サービス業、金属製品
過当競争	16.4	20.3	3.9	卸売業、食料品、建設業
合理化不足	18.5	15.3	△3.2	木材木製品、食料品、繊維
生産能力不足	10.3	12.6	2.3	金属製品、電気機器、食料品



注：図表3-2の分母は、本項目（問題点）についての回答数（複数回答）合計。

経営上の問題点をみると、1位「原材料費の値上がり」、2位「売上・受注の停滞、減少」、3位「求人難」の順となった。「原材料費の値上がり」は、22年1～3月期からさらに増加した。

回答の多い業種は、「原材料費の値上がり」では木材木製品、窯業土石、電気機器、金属製品など、「売上・受注の停滞、減少」では窯業土石、輸送機器、繊維など、「求人難」では窯業土石、建設業、サービス業などとなった。